いわき民報
發行所 いわき民報社
平市田町一番地（電話三八一番）
編輯發行人 印刷人 千輝克己
日刊 但月曜日を除く
定價 一ヶ月 六円 一部二十錢

就職の機會均等化運動
失業對策を阻害する情實採用
勤勞署が中心に强力運動展開

失業者群も漸く氾濫の傾向が見えるので、平勤勞署で萬全の對策樹立を急いでゐるが、最近求人面に會社なり工場なり、事業所で一般の公募せずに重役や幹部の縁故關係で採用する向が漸く多きを加へ、就職面の機會均等は無視される狀勢にあるが、斯くては就職面はいよ〱狹められ、對策樹立に一大支障を來すので非常に憂慮、同署では管內各市町村その他協力團体の協力を求めて、求人側に情實關係打破、失業者に對する機會均等を力强く呼びかけてゆくことに決定した、尙この運動にはさきに山崎與三郎氏を會長とする失業對策委員會の全面的共同戰線をも要請、全き効果をねらふことにもしてゐる、右に就いて同署では語る

眞の失業對策の確立は產業の再建に俟つといへ、縁故情實關係この就職者採用は、一般失業者の就職の門戶を奪ふものであり、それがひいてはその事業所の將來の癌をなすことが屢々ある点に深く思ひを致して極力排擊して貰ひたいと念ずる、眞の祖國再建にはかゝることは飽迄も打破せねばならぬ、この点を考へ今同の勤勞者の〃就職の機會均等主義運動〃には是非協力して欲しいと一般に望む次第である

辨當に惱む中等校
平商は九月から午前中授業
磐中平工は應急措置研究中

遲配につぐ遲配は市內の各中等學校生徒の辨當問題にまで進展學校當局では夏期休校を今月一杯に延長する一方、九月一日からは午前中授業で食糧事情を緩和することゝしたが、各學校當局とも目下父兄會側と懇談、種々對策を練つて居り平商業學校のみが決定、磐中、平工兩校は狀況によつて應急措置をとることに決定した、平商業學校では去る廿六日父兄會を開いて食糧事情その他について忌憚ない意見の交換を行つた結果、八月一杯を夏期休校とし九月一日からは午前中授業とすることに決した、同校の汽車通學生は百三十名で全生徒が家庭に歸つてから晝食をとる樣、學校當局では努めて午前十一時頃を終業時間とする等こゝ學園もすべて食問題に關して惱み拔いてゐる

東亞ブロック結成へ
教員組合の活動漸く活潑化
七、八兩日磐女に縣委員會

東北、北海道教員組合協議會は地區の關係で北海道岩手の不參加の中に四十七名の各地代表が參集、二十七日午后三時から福島市福島第一國民學校で行はれたが會議は翌朝二十八日の午前三時まで續けられた、結局東北北海道をブロックとする聯合全体も組織する事に決定九月下旬に仙臺で總會を開く事になつた同時に縣教育會支部の解散促進運動と教育參議會の至急設置を再要求すると共に參議會の內容に就いては縣で指名したものは非民主的でありとし教組獨自の案を作り縣に提出する事になつた、尙九月七日八日の兩日磐城高女で縣の委員會を開き左記事項を議する

一、參議會の規定案を決定
二、聯合体組織に關する規約案の檢討
三、七月案の再檢討
四、婦人部活動の促進運動

衛生班とは
市からの要望

市の衛生班は各班とも活潑な運動を開始、街に各班員の眞摯な姿が見受けられるが、市當局では衛生班についての誤解が多いので左の事項を要望してゐる

衛生班は各區內會の衛生部とは異つて居り、衛生全般について扱ふ樣見受けられるが、新設の衛生班は昆虫驅除に努めて傳染病絕滅を期するものである、要は市民が各自、各自に衛生知識を鼓吹したならば誤解の受ける樣なことはあるまいと想ふ

清酒〃清世界〃
清水屋本店
小野義一
小名濱町電六、二七二

市の野菜集荷順調
端境期には茨城から急援を

平靑果物荷受組合の荷受配給狀况はその后順調で昨二十八日の如きは郡內、外の集荷併せて千二百余貫と云ふ記錄的數字を示してゐる、既に二十日以降一人五十匁宛の配給を實施、市民感謝の的となつてゐるが、唯これからは端境期となるため幾分か懸念されるが、組合側としては茨城方面からの援助を仰いで配給に支障を來たす樣なことは絕對にしないつもりです―と語つてゐる

この蔭には國井組合長をはじめ全所員の並々ならぬ苦闘が結集して八、一颱風以來、事平市の野菜配給は生產者の協力にも依つて順調に進捗、こゝに凱歌を擧げるにいたつた

平の麥供出 頗る好調
矢吹會長の督勵 見事に効を奏す

市郡下の麥の供出は依然涉々しくないので、平市農業會では矢吹會長を陣頭に督勵運動を展開中だが、會長自身の熱意に農家も感激、以來供出成績があがり二十八日で大麥割當千四十六俵に對し八百三十俵、小麥二百五十八俵に對し百三十俵で綜合成績八十九%といふ好成績で完遂も今一歩とある

玄麥の供出は
月末迄に完遂
小名濱の窮情に 實行組合長約す

小名濱町では極度に深刻化した食糧危機の突破のため二十七日午后から町內各農事實行組合長の參集を求め、長瀨助役から危機の實行を詳細説明、飯米の入荷見込はなく蠶の供出また涉々しからざる今日玄麥供出を待つより外なく、ために町內麥加工場を督勵、一日四十俵の加工能力を倍加せしめ受入れ手等を救へてゐるからこの際同胞愛により極力供出完遂方を督勵されたしと懇請した、各組合長も町の窮狀の深刻さを諒として、今月末迄に是が非でも大部分の供出を完遂せしめることを約した、この供出が豫想通りゆけば非常に救はれる譯で各組合長の協力に大きな期待をかけてゐる

甘藷は九十町の減
原因は苗の枯死と肥料不足
然し作况は先づ大豐作の部

九月から十月にかけての食糧危機を救ふべき重大使命をになつて登場するさつまいもの收穫豫想高はどうか―

▼反別四百三十九町八反▼反當見込數量三百三十貫▼總收量見込高百三十七万二千貫
▼計劃作付反別七百二十一町うち實績は二百九十二町減九數字を示し昨年に比しても九十町歩の減となつてゐる、原因は一部肥料の不足と干害のため苗が枯死した結果とあるがこれでも大豐作ですよ―とは係員の辯

平城東文化會誕生
健全な鄉土文化の向上目指して

市內仲間町を中心とする第十七區の有志は、健全な鄉土文化の向上に寄與すると共に、會員相互の親睦と修養をはかるため、去る二十四日平城東文化會を結成した、會員は二百名で事務所を會長宅設置した、組織は庶務會計、文化、厚生の四部とし、文化部內に學術班、音樂班、文藝班を又厚生部內に体育班と奉仕班を設けて居り、地域的に極めて强固な組織を示し今後の活動振りは市の文化運動に一大指針を與へるものとして期待されてゐる、尙役員は左の通りとある

▼會長吉田英政▼副會長增尾克壽、大井川幸隆夫人▼庶務部長橫山久（眞弓憲匡、增尾幸子）、▼會計部佐々木義光、松崎智枝子▼文化部長中柴光泰▼文藝班（中根大樂久子）▼學術班（渡邊義輝、中根滿子）▼音樂班（齋藤正男、筒井登久子）▼厚生部長柴田弘一▼体育班（難波榮三郎）▼奉仕班（山崎義照）▼顧問佐藤伊太郎、大井川幸隆

湯本町水道の料金値上げ
濫用行爲等には給水停止處分を

湯本町水道料金は物價及人件費等の暴騰のため經營困難となつたので八月分から左の通り値上げすることになつた

計量給水▼家庭用十立方メートル迄三、〇〇（一立方メートル增每に〇、二〇）▼湯屋五十立方メートル迄七、〇〇（一立方メートル增每に〇、二〇）▼機關工場五十立方メートル一〇、〇〇▼娛樂用四立方メートル迄五、〇〇◆專用給水▼五人迄三、〇〇（一人增每〇、二支栓一栓一、〇〇牛馬一頭〇、七〇浴槽一ケ一、五〇）◆共用栓▼公共栓五人迄一、〇〇（一人增每〇、一〇牛馬一頭〇、五〇浴槽一、三〇）▼私共栓一、五〇（一人增每〇、一五牛馬一頭〇、七〇浴槽一、五〇）

尙連日斷水で迷惑を掛けてゐるが最大原因は一般の濫用である今後濫用行爲發見の場合は給水を停止するとある

伊藤上席檢事
朝鮮から着任

平地方裁判所上席檢事伊藤満氏は二十八日夜八時の列車で着任された、前任地は朝鮮

平の赤痢 市內鍛冶町二九保險業儀中さん次女敬子（四）ちやんは二十八日赤痢と決定

平市會の警防委員

二十八日市會の結果戰時編成から平時編成の切換に依り七百五十名から四百二十名に減員された警防團の運營强化の爲最低限度の市民の安全感を保持する必要上警防委員として左記五氏を任命市會、參事會を經ず委員の手に依り運營する事になつた

吉田喜代治、山崎忠兵衛、柴田德二、馬目武之助、矢吹龜作

社會黨支部の選擧對策協議
三十一日市平で

社會黨磐支部では來るべき地方議員選擧に必勝を期すべくこれが對策について三十一日平市事務所に幹部協議會を開いて協議するが、併せて救國民主聯盟問題その他の重要案件に對する對策協議をも遂げる

いわき寸言

▼就職面の機會均等化運動を勤勞署展開す、情實採用に一矢を放つもの斯くて失業對策も確立さるゝのである、協力こそ望ましい
▼平市の麥供出意外に良好、郡部を尻目に八割臺を示す、上に立つものゝ熱意がものいふことをすよい例何れも右へならへ
▼平城東文化會誕生す、地に足のついた文化運動の少い折柄これは眞に喜ばしいこと健全なる發展を祈つてやまぬ
▼洋服類の受註販賣を平地區統制組合が開始する、サラリーマンには嬉しいこと情實を排して飽迄公正たれ

平で一番
安い店 買よい店 賣れる店 に したいと努めてゐる
いづみや です
新設電話 三四八番 を御利用下さい
（平驛前）

入荷御案內
公定 精工舍 目覺し時計
公定 大型・小型柱時計
公定 各種眼鏡
舶來腕時計
常盤屋時計店
平 電339

供出と日本農民組合

日野利春

（一）

食糧危機を前にして、大、小の供出の不振から『供出問題』について各方面の注目が集められてゐる。農村に於ける唯一の全國的民主團体である日農は此の問題をどんな風に考へてゐるか。

そも〱『供出』と云ふ言葉が農民にとつては愉快な言葉ではないのだ。この言葉は『徴用』等と同じに、何か強制された壓迫感と、官憲の强權を思はせるものだ。凡らく『徴用』と云ふ言葉に好感を持つてゐる國民はないと同じやうに『供出』と云ふ言葉ほど農民にとつて不愉快な思ひをなさせるものはあるまい。

此の言葉は戰爭中の軍閥政府が農民を强迫し、莫迦にするために用ひた翼賛語の一つである。軍閥政府は如何に農民を苦しめたか『國のため』と云ふ美辭を用ひてサーベルをもつて淳良な民を强迫さへしたか。肥料をやる、報償物資をやると幾度吾々はばかにされたか。農繁期の中で松根を『供出』させられたか。釜も鍋も自在かぎまでが『供出』させられたのだ。『供出』ほど不愉快な思ひを殘した言葉はない。

吾々はいま新しい民主々義革命の出發に當つて、この言葉に代るべき、農民の愛國心にぴつたり合つた言葉を欲しいと思つてゐる。

日本の農民ほど愛國心の强い人民はないと思ふ。不幸にして此の愛國心は、軍閥に利用され軍國主義戰爭に盲目的に引きづり込まれたのであつた。今こそ農民の愛國心は同胞の上に、『民衆の國家』の上に注がれねばならない。同胞の食糧を確保する事は、全農民の誇である。吾々は、市の勞働者の、鐵道の從業員諸君の、バスの運轉士諸君の食糧を供給する事を光榮とするものである。吾々農民の一人一人は農民魂の中にその用意をもつてゐる。

しかし、此のやうな農民の精神を萎縮させ、供出をにぶらしてゐるものは何であるか。それは今尚戰時中の天下り的官憲行政手段をそのまゝ、農民の自主的精神をふみにぢつてゐる政府のやり方にあるのだ。

肥料をくれず、農機具の計畫もなく、増産に對しては何の誠意もなく、たゞ供出の一点にのみ彼等は天下り割當をおしつけて强權さへも發動するのだ。强權はむしろ肥料會社と各村に土地取上げをやる地主に對して行ふべきである

稻作の强敵ザリガニ

平市附近の繁殖被害甚し 食用としては頗るの美味

稻作阻害の害虫に新手が現はれて農業會の技手連を惱まして居る、之はザリガニ（一名エビガニ）と云ひ最近平市佃町から飯野村谷川瀬方部の田に發生田の畔に穴を明けて水を流して了つたり、あの大きな鋏で稻の根をきつたり、その被害が非常に大きく、豊作を豫想されて居る田に一部とは云へ新手の害虫が現はれた事に農業會でも頭を絞つて居るがザリガニは元來内地産としては北海道の一部位にきり棲息してなかつたが、愛玩用として外國から輸入されたものであるが、平市の發生は内郷方部の疎開者のもたらしたお土産ではないかと見られてゐるが古川を中心として非常に繁殖して居る、之は食用にしてはとても美味しいものなので家庭で代用食にはもつてこいであるから生徒等を動員して之が撲滅をして欲しいと農業會では語つて居る

増産に備へ 有害鳥絶滅

稔りの秋に備へて有害鳥類の絶滅を期するため平署ではこの程十月三十一日までの期限付で害鳥の捕獲を許可した 管下で四十五名が許可され農業會と連絡して増産援護に一役買つて出る

お買物は皆様の
化粧品、固型洗劑、吊人形
甘味料、小間物、各種雜貨
▽樂器部新設△
平四丁目 電二六八 やまよし

木炭生産に拍車を

石城地方事務所では管下において相當量の木炭が生産されてゐるにもかゝはらず主食との物交や横流れ、正規ルートにのつてこない實情にあるので各町村農業會の協力を得て南瓜等を特配、生産に拍車をかけて買ふべく計畫を進めてゐる

芳しくない麥の供出

大小麥共未だ五割以下の不振

郡内馬鈴薯の供出は好天氣と代替の影響で豫想外の成績で割當量を遙かに突破したが、之に伴つて大麥、小麥の供出成績は甚だ思るく割當完遂期限の十五日では大麥三二%、小麥三三%で縣下で十番目の下位にあり、作柄の面白くないと云ふ点がその原因とされてゐるが二十七日現在でもやつと大麥一九五三〇俵、四九%、小麥四七九六俵、四八、二%と云ふ有樣で食糧檢査所の懸命の檢査にも拘はらず九月危機を前にして事態を憂慮されて居る

勞働委員選任

弘中氏の辭任で 三日平勤勞署に

弘中一雄氏の辭任に依る勞働委員の補充は、九月三日平勤勞署樓上で全勞組代表の參加の下に決定する事になつた

眼鏡專門 玉屋 平市二丁目
視力計も設備が有ります
各眼科醫指定

開放

投書を歡迎す 要望批判結構 紙上匿名可

漏配より見た國民性

▼之迄四倉町は當事者の努力に依り食糧の遲配缺配は無かつたが危機は愈々見舞つて來て最近十日間内外の遲配があつた、私は據り處少い引揚者、罹災者がどうして過してゐるか又一日も早く配給の出來るやう尚此後一層の努力を願ふ爲めの材料にもと二日がかりで隣組長を訪問して會員の樣子を尋ねた處、組長さんは異口同音に『皆お米が無いのだから仕方が無い』と諦めてゐて一般が平穩だどのこと東京を始め各地共同樣である、昔から『武士は食ねど高ヨウジ』といつてゐるが何といふ諦めのよい國民だらうか、何といふ底力のある國民だらうか、終戰以來國民一般は敗けたのだから仕方が無いと諦めて偏にポツダム宣言の實行に忠實である、之は我皇室の御徳に依るにとゝは申せ正に我が國民性の發露であると思ふ、爲政者は此氣性を尊重すると共に將來不平不滿の起らぬやう善政を施して新日本の建設に邁進すべきであると思ふ（花澤乙丸）

敗戰の文字

終戰以來日本は歴史ある一年を迎へた、苦しい敗戰の現實に目ざめ悪條件にもめげず新生日本建設の爲、努力し、思ひ出の八月十五日を迎へたのである 敗戰といふ言葉はすでに不必要なのである、我々新生日本建設の爲努力してをる人間には建設といふ言葉は頭にのこつてゐても敗戰といふ言葉はすでに投げ捨てたのである、にもかゝはらず日本の新聞それも一流新聞は未だに敗戰又は敗戰日本等の言を使用してをる、何の爲にその言葉が必要なのか、國民はともすれば現在の社會情勢に心が暗くなりがちであるのに、その上に又、前記の如き言を弄するのは不安なる人心に一そうの拍車をかけるも同然である、日本國民擧つて新生日本を建設せんが爲に努力してをる今日前記の如き言葉はお互ひに使用したくないものである（齋藤祐三）

鑛毒對策に委員任命

平市會が將來の對策萬般のため

さきに發生した平窪の鑛害事件は炭礦側の誠意に依り一時的解決を見たもの、將來もに種々の問題を生ずる必然性に鑑み二十八日の市會に於て鑛外對策委員を擧げ將來の問題に當る事になつた、委員の顔觸れは左の通り

鈴木勇、瀧沼龍輔、金古政道、松本金市郎、矢吹龜作、萩原義雄、永山勇吉、福田長一郎、矢吹初彌

高價買入レ
衣類、金屬、書籍、骨董
平市南町平館隣り 中央會館

平寫友會も再發足準備

平寫友會では過般、開かれた小名濱寫友會の競寫會に刺戟されて九月初旬頃、市内からミスモデルを選び、松ケ岡公園ほか丹後澤等名所古蹟で競寫會を開催すべく計畫を進めてゐる

同寫友會は現在草野大氏の農村疎開で率先して指導する人物が居らなかつたが、このシーズンを機に全會員が一丸となり再發足することゝした

生活と文化

還らぬ兄

遊佐慧

靜枝さんが私の兄さんの許嫁として秘かに私の知らぬ間に内々決められたのは丁度私が女學校に入學した頃だつたかしら。靜枝さんは私の學校の先輩で私より二ツ年上のやつと今年の春卒業したばかりの乙女なのです眼の澄んだ黑髪の美しい健康の頬と唇をほんのり紅にした小さい口に白い齒並をその話す折に相手の人に滑らかな感じを傳える樣なそんな乙女でした。私が入學すると同時に卒業したので學校ではお目にかゝらなかつたのですがお兄さんのお見合ひの頃一、二度お會ひしたたけの私には全然未知の女性だつたのです。

お兄さんは二十二才で、中學校を出ても上級學校にも進まないで、直ぐに隣町のR銀行に勤め私と母の二人を養つて呉れたたつた一人のお兄さんなんですの。些細な亡き父の遺産とお兄さんのお給金に依り私はこうして女學校にも行ける樣になつたのです。

そして昭和十七年二十三才の春お兄さんは大東亞戰爭に勇んで出征なされました、その時靜枝さんはやつと十九才でした。許嫁とは名ばかりの中に、こうして二人はお互に遠く離れ離れの生活に入つてしまつたのです――三年四年――お兄さんが征つて四年目の夏昭和十年八月十五日――日本は降伏しました。お兄さんの友達のAさんもBさんも、私のお友達のお父さんもお兄さんも皆復員して來ましたのに――私のお兄さんはまだ復員なさらない、今は千島の方に居りますとか風の便りにも寒々と何らの心安めになる報告もありません。

私は母とお兄さんの生還をお祈りしてをりますの、そしてもう二人、あの靜枝さんも今年は二十四才です、やさしい靜枝さん、一段と美しくなつた靜枝さん、輕やかな黑髪のウエーブ、お臺所とお針、そして讀書の趣味を持つた靜枝さん、未復員のお兄さんを想ふと、靜枝さんが可愛想になりますの。終戰后靜枝さんは私の家に移つて來ました、私はお姉さん――やつとお姉さんと呼べる樣になりました（八月二十五日）

病（やまひ）
一、原因 病氣種別は醫師診斷
一、くすり 醫師處方藥、家庭藥
一、手當法 本人の看護熱意（營養）
有家庭衛生資材並に其の他相談に應じます
日本健民原生協會指定
生盛藥劑株式會社指定
平市田町（銀座街）
あこう藥局
藥劑士 阿部康雄
電話四十四番

時計新入荷
◈掛時計 ◈置時計 ◈腕時計
眼鏡、時計、萬年筆 修理販賣
ライター、喫煙用具
長い間御不自由をさせましたが漸く準備が整いましたから是非御來店下さい
平市驛前銀座通り
誠光堂時計店

一般塗裝工事請負
遠近を問はず出張工事御用命に應ず
營業案内
船舶塗裝 建物塗裝 鐵骨塗裝 自動車塗裝 オートバイ 吹付 ワニス 防腐劑 コールタール 塗裝一般
安島塗裝工業所
安島光照
小名濱町横町四四番地電一七八番